

## 英語圏のヤングアダルト文学と図書館活動

白井澄子

ヤングアダルト (YA) 文学および図書館における YA サービスは、1960 年代後半のアメリカで生まれ、世界に広がったといわれますが、YA サービスの発端や初期の作品について簡単に説明した後、今、話題の YA 作品をテーマにそって紹介し、その特徴や意義、時代による変化などについて考察をしてみたいと思います。最後に、今、アメリカの図書館ではどのような YA サービスが求められ、実践されているかについてもご紹介します。(レジュメ内の出版年は原作の出版年です。ブックリストの出版年は日本での出版年です。)

### 1. YA サービスと出版のはじまり

1960 年代後半のアメリカの図書館で、若者からの「読むものがない」という声に対して図書館が動き出し、出版社や作家に呼びかけたのが発端でした。

### 2. 英語圏のヤングアダルト文学

#### (1) 黎明期——20 世紀半ば

1960 年代後半からティーンエイジャー向けの作品が書かれ始めますが、その源流は『ライ麦畑でつかまえて』だといわれています。初期の YA 小説は、それまでの児童文学におけるタブーを破った暴力や性描写などを強調した「問題小説」が多く書かれました。

(注：アメリカにおける児童文学のタブーとは、暴力、性、薬物、離婚、死など。)

『ライ麦畑でつかまえて』(1951 アメリカ)

『チョコレート・ウォー』(1974 アメリカ)

『キャサリンの愛の日』(1975 アメリカ)

#### (2) 現代の YA 文学——20 世紀後半～現代

2000 年には YA 文学に特化したマイケル・L・プリンツ賞 (アメリカ図書館協会、アメリカの図書) などが設置されました。現代になると、作品の多様化、グラフィックノベルの登場などさまざまな表現の変化が見られるようになります。ここでは四つのテーマにそって作品を紹介します。

##### ・異文化摩擦

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』(2019 日本)

『穴』(1998 アメリカ)

『天国までもう一步』(2001 アメリカ)

『はみだしインディアンのホントにホントの物語』(2007 アメリカ)

・家族、友だち

- 『かかし』(1981 イギリス)
- 『ディアノーバディ あなたへの手紙』(1991 イギリス)
- 『ガールズアンダープレッシャー ダイエットしなきゃ!!』(1998 イギリス)
- 『ウォールフラワー』(1999 アメリカ)
- 『二つ、三ついいわすれたこと』(2012 アメリカ)

・ジェンダー、セクシュアリティ

- 『カラフルなぼくら 6人のティーンが語る、LGBTの心と体の遍歴』(2014 アメリカ)
- 『サイモン vs 人類平等化計画』(2015 アメリカ)
- 『パンツ・プロジェクト』(2017 スコットランド)
- 『兄の名は、ジェシカ』(2019 アイルランド)

・障がい、難病

- 『夜中に犬に起こった奇妙な事件』(2003 イギリス)
- 『怪物はささやく』(2011 イギリス)
- 『さよならを待つふたりのために』(2012 アメリカ)
- 『ペーパーボーイ』(2013 アメリカ)

**(3) グラフィックノベル**

コマ割りの絵と文で表現された文学作品です。内容的には「ノヴェル＝文学」的な要素が強く、画像を入れてシリアスな内容を伝わりやすく工夫しているのが特徴です。

- 『風が吹くとき』(1982 イギリス)
- 『アライバル』(2006 オーストラリア)
- 『アメリカン・ボーン・チャイニーズ アメリカ生まれの中国人』(2006 アメリカ)
- 『Girl』(2008 カナダ)
- 『ユゴーの不思議な発明』(2007 アメリカ)

**3. 現在の英語圏の YA サービス**

(“Transforming Library Services for and with Teens through Continuing Education”等を参考に)

- ・読書離れする若者への対処
- ・ティーンを巻き込んだ図書館活動
- ・継続教育の支援
- ・オンライン・ブッククラブ